

基本目標3：「結婚・子育て・老後まで安心して生活できる東通村の豊かな暮らし」の創生について

1. 教育環境デザインひがしどおり21推進 (No.134)
2. 健診（検診）強化施策 (No.141)

1. 教育環境デザインひがしどおり 21 推進 (No134)

1. 目的・目標

人づくりのための学力の充実を基本的方向として

- ①21世紀の国際的リーダーと村をリードする次世代の優秀な人材を輩出する。
- ②教育環境デザインの具現化により、子どもを持つ世帯に魅力的かつ先進的な教育の村として確立し、定住志向を高め、県内外からの移住取り込みを図る。



2. 取組状況

- ・幼小中一貫教育として、こども園から小学校へ、小学校から中学校への一貫性の充実を図りながら、「人づくりのための学力の充実」「実践的コミュニケーション能力の向上」「自立した社会創造の担い手の育成」の3施策を柱として取り組んでいる。
- ・特に、村費負担教諭・講師の採用により、小中学校では少人数学級編制、TT指導、習熟度別学習、専科制の導入を行うとともに、こども園でも英語教育を実施している。
- ・学習塾については、通年講習で中学校3年生を週2回、1・2年生については夏季講習を実施している。

3. 成果・効果

- ・小中学校とも「学力向上」を経営目標の第一に掲げ、今年度の青森県学習状況調査では、中学校2年生が、数学・英語で県平均を上回るとともに、学力診断等でも全学年に学力向上の効果が表れている。

4. 課題・問題点

- ・幼小中の一貫教育体制や、先進的な教育環境は整備されてきたが、学力テスト等の客観的評価の可能な「見える学力」の向上は、まだ、安定した結果となっていないことから、教育デザイン施策のさらなる充実が必要である。
- ・また、近年は特別な配慮を要する児童・生徒も増加傾向にあることから、関係者・関係機関と連携した取り組みが必要である。

2. 健診（検診）強化施策（No.141）

1. 目的・目標

厚生労働省発表「平成22年生命表」において、青森県は平均寿命全国ワースト1位、東通村は市町村全国ワースト5位（男）76.5歳、ワースト24位（女）84.8歳でした。

平均寿命を引き上げるとともに健康寿命の延伸を図ることが必要です。

死因の三大疾患（がん、心疾患、肺炎）が重度化してから治療を開始する傾向にあり、病気の早期発見・早期治療を図るため、健診・検診を全村民受診し、村民の健康を守ることを目標とします。

2. 取組状況

- ・ 健診（検診）未受診者への受診勧奨通知。
- ・ 健診未受診者への電話による受診勧奨。
- ・ 各地区の保健協力員による健診未受診者への受診勧奨訪問。
- ・ IP告知端末、防災行政無線、広報ひがしどおり、健康（健診）カレンダーでの周知。
- ・ 受診率の低い、若手漁業関係者（職業面）、芸能保存会（文化面）への受診勧奨。
- ・ 漁業者を対象とした集団健診の実施。
- ・ 集団健診以外での対応として、東通村診療所（婦人科健診以外）での個別健診、むつ市内医療機関での子宮頸がんの個別検診実施。

※村民すべてが意識を持ち、何の機会でも、「受診勧奨」を言い続けることが必要。
（人と人との信頼関係を構築、「行ってもいいな？行こうかな？の雰囲気づくり）

2. 健診（検診）強化施策（No.141）

3. 成果・効果

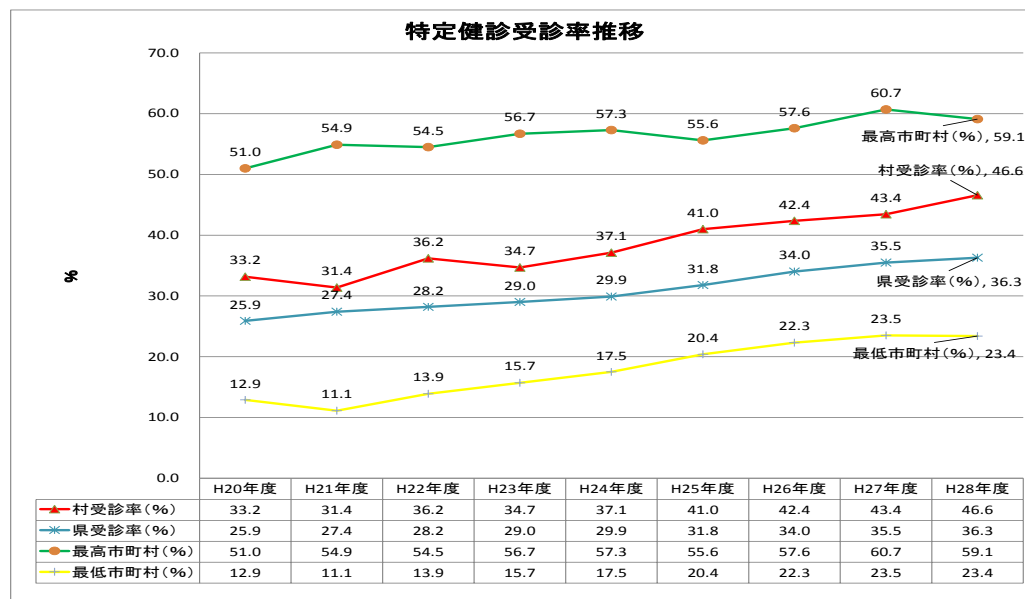
厚生労働省発表「平成27年生命表」において、青森県は、またもや平均寿命全国ワースト1位、東通村は市町村全国ワースト42位（男）78.7歳、ワースト73位（女）85.9歳で、いくらかは改善が見られた。

健診率（特定健診率）は、右図のように平成28年度数値として46.6%で青森県内7位/40市町村

青森県平均は、36.3%、

全国平均は、36.6%である。

国では特定健診、保健指導60%を目標にしており、全国では53市町村が達成しています。一番人口が多い、富山県南砺市、5,515/8,830人 62.5%



4. 課題・問題点

地道な受診勧奨により、ある程度の受診率向上は見てきたが、全く受診しない方への対応、アプローチについて考える段階にきている。（若い人、地域と交流のない人・・・）

認知症やフレイル予防、健康づくり運動とのマッチングや、（仮）村民一斉体力測定、（仮）村民運動会など、交流と運動の新しい施策、動機付け対策を考える必要がある。